

CATV監視装置

【ミハル通信株式会社】

特徴

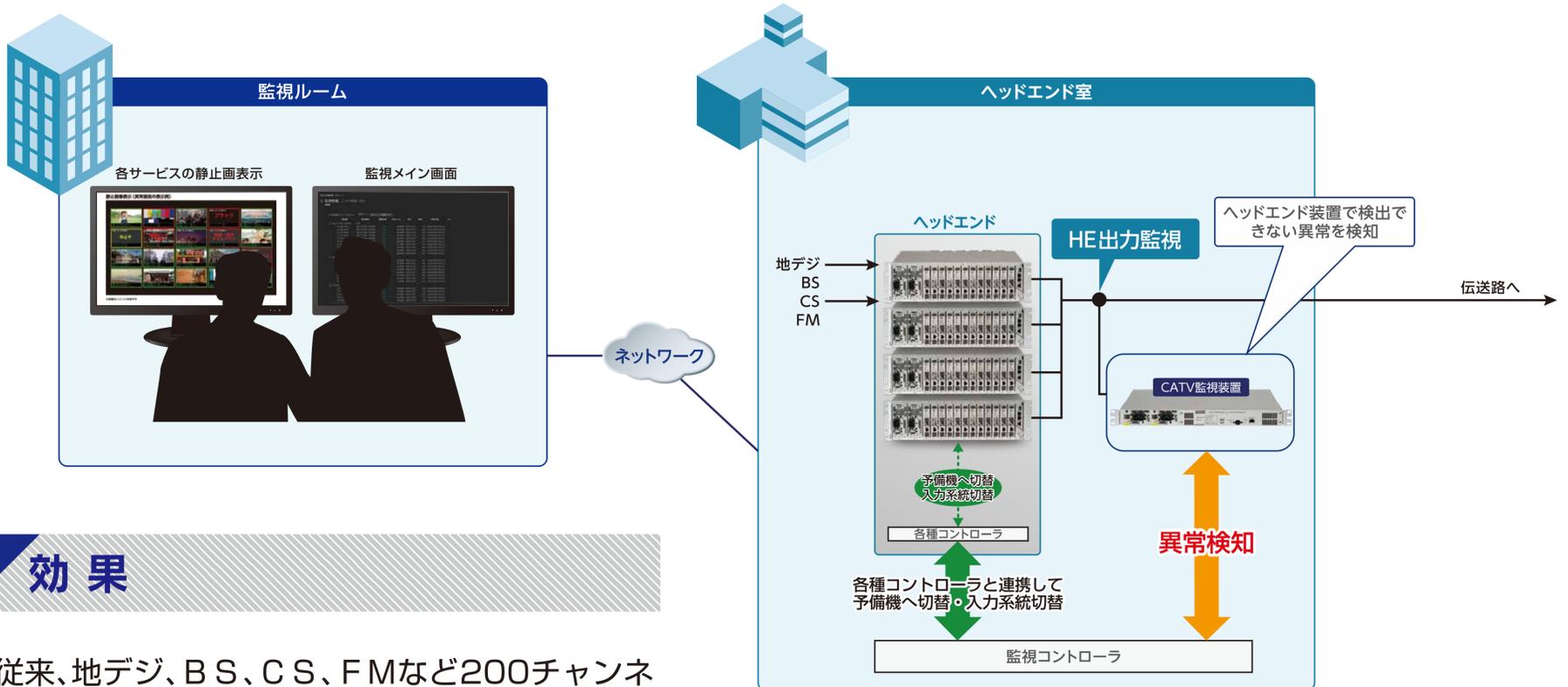
ケーブルテレビ局で放送中の全チャンネルの信号状態や映像のフリーズ・ブラックアウトを検出し、自動で予備機への切り替え機能をもった小型装置です。

- ケーブルテレビの全国世帯普及率が50%を超え情報インフラとしての重要性が増す中、放送法改正により万一の放送停止事故について報告が義務化されるなど、放送停止を起こさない為のシステムの信頼性や強靭化が求められています。
- そこでミハル通信は、放送中の地デジ、BS、CS、FMなど200チャンネルを超える信号を1台で監視可能で、障害時の原因箇所の切り分け予備機への自動切替機能、電子番組表による放送休止検出機能など従来にない監視システムを開発しました。



CATV監視装置

映像・音声・CATV制御信号などを巡回監視、障害原因の特定、予備機への切替を指示



効果

- 従来、地デジ、BS、CS、FMなど200チャンネルを超える信号毎に独立した個別監視装置が必要で、金銭面・人的面での負担が重く、スペース的にもロッカー数個分が必要でした。ミハル通信は、信号を同時に扱いながら、狭い筐体内にある複数のチューナー同士のノイズ相互干渉を防止する高度な高周波回路設計・高密度実装技術を開発しました。そのため、ロッカー数個分がブルーレイレコーダーサイズにまで小さく出来た上に、コストも大幅(1/10以下)に下げることが出来ました。
- 本製品は放送監視に必要な十分な機能を1台で実現しており、金銭面・人的面での負担が軽減されます。放送停止事故が起こった場合でも、短時間での切替・復旧が可能となり、国民生活への影響を最小限にできると期待されます。